

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業
分担研究報告書

脊柱靱帯骨化症に関する調査研究
研究分担者 谷口 昇 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 教授

研究要旨 胸椎後縦靱帯骨化症術後観戦の危険因子

A. 研究目的

胸椎後縦靱帯骨化症術後感染の危険因子を
検討すること。

B. 研究方法

対象は 2007 年から 2020 年まで胸椎後縦靱
帯骨化症に対して脊椎後方除圧固定術を行
った 43 例。感染群と非感染群との二群間比
較を行った。

(倫理面への配慮)

インフォームドコンセントの実施と文書で
の同意の取得

C. 研究結果

感染群 / 非感染群の比較では、身長
1.72/1.60m (P=0.04)、BMI 36.9/30.0
Kg/m² (P=0.049)、手術時間 537.4/377.6
分であり、高身長の高身長群、長時間手術が
感染しやすかった。

D. 考察

胸椎後縦靱帯骨化症は高度肥満のため展開、
閉創といった軟部処置に時間がかかること
が多い。術後創部管理として早期陰圧閉鎖
療法や脂肪組織が多い皮下にドレーン留置
などの対応も必要であると考えられた。

E. 結論

胸椎後縦靱帯骨化症に対して脊椎後方除圧
固定術を行った症例において、感染群では
高度肥満群、長時間手術が有意に多かった。

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

第 50 回日本脊椎脊髄病学会 (2021)

3-5-F99-2 胸椎後縦靱帯骨化症術後感染
の危険因子

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし